

質問（18条関連）

RC 規準 2010 年版に関する Q & A-No.6 に以下の質問と回答が出ています。

質問 片持ちスラブ及び片持ち梁については実務的に係数としてどの程度が適正ですか？

回答 片持ち梁に限らずせいの小さい梁については付 7.の長期たわみ計算法にてチェックして下さい。

上記の回答について以下に質問いたします。

ここでいう「長期たわみ計算法」とは、2010 年版 P.464～、2018 年版 P.502～の部分を指していますか。これらの計算法の根拠となった実験等は、梁またはスラブの両端が支持されている部材についてのものでしょうか、片持ち梁にもそのまま適用できるのでしょうか。その根拠となる資料があればお示しください。

（一般財団法人日本建築センター 構造判定部 小林祥一）

回答

2018 年版で回答致します。p.503～の 2.3 に示された計算法は、ご指摘のとおり両端支持の条件で計算された曲率増加倍率をまとめたものであり、付表 7.2～付表 7.4 の値は片持部材にはそのまま使用することはできませんので、p.512～の 2.4 に示された方法で計算して下さい。2.4 も両端支持の場合の計算式が示されていますが、片持部材の計算式は 18 条参考文献 13) を参照してください。片持部材の計算式の適合性は 18 条参考文献 13) において 6 体の実験結果と比較して確認しています。2018 年版「鉄筋コンクリート構造計算規準・同解説」Q & ANo.30 にも関連する回答を掲載していますので参照してください。